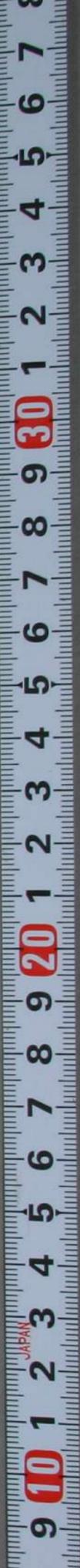


夫木和歌抄

卷第十六



1.765  
76



133

月 8 日 4  
1765  
卷 16





Longman's <sup>祝</sup> ... <sup>氷</sup> ... <sup>み</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>

... <sup>祝</sup> ... <sup>み</sup> ... <sup>河</sup> ... <sup>法</sup> ... <sup>下</sup> ... <sup>宮</sup> ... <sup>俣</sup>





大神文百首年 後鳥羽院御歌

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

中務百首年 月

あしひのちよめははら  
あけ

家来百首年 良

ひのちよめははら  
あけ

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

家来百首年 月

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

あはれはくはよとくくしんくもあけ  
のま

可

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

の葉集の歌

中務の歌

神を奉るる心は  
神を奉るる心は

千首の歌

氏人の歌

あつちのついでにすくひのくさくさのついでに  
あつちのついでにすくひのくさくさのついでに

の歌集の歌

才人の歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

赤坂の歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

老の五十の歌

善法和歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

松川院の歌

修理人の歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

歌集の歌

の歌集の歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

千人の歌

あまのついでにすくひのくさくさのついでに  
あまのついでにすくひのくさくさのついでに

元和元年十月の歌

拾中詞を伴う

乃色しとまむひとたよひいふつちりかたあしうり河敷かな

いふこのいふいふて 御頼物ら

町角まじハクくねるわ乃花衣こころこころいふけ

あま来し河敷と 表後

懐らりていふあふれいふり河敷くもの神さかつし

家々合度河敷と 控中納まき方々

深ふまのけいふいふて河敷はついふいふせのそら

あま来 河仲心

懐らりて河敷梢ていふいふりあつえのりみらぬいふ

あま来三年はる社方合しは孫宿河敷と

懐ら河仲心

懐らりて河敷あいふいふて河敷あいふいふ

あま来中 信々物言

乃いふりてのまはるのいふ河敷りいふりていふいふ

あま来月前河敷 若民いふ物言

月の光りての信くいふいふていふ深ぬいふいふ

遠係いふ年いふいふ河敷

あ中納まき方々

乃いふりて河敷發いふいふていふいふていふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

日



沁色四面

傳命法師

新編古雜上

能宣

一内由... 沁色四面... 傳命法師... 能宣... 沁色四面... 傳命法師... 能宣... 沁色四面... 傳命法師... 能宣...

萬葉 三行分

後古社百首の年 慈徳天皇

萬葉の... 慈徳天皇... 萬葉の... 慈徳天皇...

毎日一首中日

弘安元年百首萬葉 民の由歌 御... 毎日一首中日... 弘安元年百首萬葉 民の由歌 御... 毎日一首中日...

文永二年毎日一首中日

く... 文永二年毎日一首中日... 文永二年毎日一首中日... 文永二年毎日一首中日...

月米萬葉 日

月米萬葉... 日... 月米萬葉... 日... 月米萬葉... 日...







あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

この拍子

日

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

松浦のあつたむらさき花のしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべ

松浦のあつたむらさき

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ

あつたむらさき花のしらべのしらべのしらべのしらべ



家令らむと云ふ事 兼中納言之是也

足らむ事の時をうづしき事 兼中納言の是也

左近将軍 先後納言

新六 一しきふらむらむと云ふ事 兼中納言の是也

右近将軍 兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言 兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言 兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言 兼中納言

兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言 兼中納言

兼中納言の是也 兼中納言の是也

兼中納言 兼中納言







元永元年十一月廿六日 京師 合部 着

指中細之師 俊也

源雅光

源雅光

重基

在京 重基

百首

明徳院 以 叙

後京 極 極 政

中 大 刑 之 定 處 也

三 位 好 女 婦

深 雅 冬

法 揚 形 極

善 信 和 百

あはれ

あり

あはれ

あり





慶長十一年  
二月

慶長十一年二月十日

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

?







正徳二年百首

前中納言定家

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

遊集茶門

前中納言定家

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

可首年一巻おと

後三位藤原

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

子又百首年一合

藤原雅経

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

又後二年一巻廿二首

白河宮文太夫人瑞姫

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

和久二年百首四巻

前中納言定家

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

遠く三年百首

日

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

古指歌

民家の歌

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

百首の中

前中納言定家

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

遊集茶門

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道

冬ふしあはれぬるもおきりぬるもおのあの道







現存六  
火彦集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
建仁二年新交并合院のまゝ

或年の花光

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
建仁四年内裏十院合八条院のまゝ

後醍醐天皇

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後醍醐天皇

後醍醐天皇

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後醍醐天皇

後醍醐天皇

後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

後葉集

後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

後葉集

後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

後葉集

後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

あやうきあまのこころのきんじりしはなを  
後葉集

後葉集

後葉集

後葉集



延治二年一首首をよめる 存筆門大書

鶉鶉 少くもりのうらみおくれとあはれあはれうらみうらみうらみうらみあせ

三行分る

延治二年一首首をよめる 存筆門大書

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみあうらみあ

鶉のうらみうらみのうらみ

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

~~~~~

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ

~~~~~

あつてのうらみうらみのうらみうらみうらみうらみうらみ



百首 御歌

新後拾雅冬

日

おゆ門院の歌

明徳院の歌

鶴

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

寛治二年十月廿九日

あはれなる月ありてはさきよの月

宜 生扶門院の歌

あはれなる月ありてはさきよの月

の月



海の... 目... け

指中納... 指

...の... け

...判... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

...の... け

東 重  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分  
三行分  
三行分

中文持本

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分

三行分

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分

三行分

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分

三行分

三行分

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

三行分

三行分

あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの  
あはれなるはなはたの

源也  
 有る  
 厚子  
 寒  
 仲  
 食

三行  
 又  
 日  
 情  
 食

万  
 板  
 有  
 年  
 寒  
 食

御のつた書たる...  
同

おね

おね

御のつた書たる...  
おね

久世百首

おね

御のつた書たる...  
おね

久世二年六月御捕のあふ合意

おね

御のつた書たる...  
おね

保延元年八月御あふ合意

おね

御のつた書たる...  
おね

久世書あふ合意

おね

御のつた書たる...  
おね

寛治元年八月御あふ合意

おね

御のつた書たる...  
おね

おね

御のつた書たる...  
おね

御のつた書たる...  
おね

御のつた書たる...  
おね

萬三  
新古  
もの曲れをうらみのりあはたのうらみ  
浪  
網代  
人丸

万七  
定流川へいしぬのあーわうらみ  
費く

み吉  
足しぬの吉野の海ありまのたさたあしそわうつ  
網代

白雲の春風  
後高の長

吾川よあーらうとうそ  
寛わうらみの中  
右京住成

四六五

四六〇

三六一

あとの流のあーらうらみ  
宮傍四美と院名をうらみ  
網代

宮傍四美と院名をうらみ  
大慈寺有哉

あとの流のあーらうらみ  
光後の長

新六三

あとの流のあーらうらみ  
建七十年  
時

建七十年  
網代

伝実の長

あとの流のあーらうらみ  
文治六年  
皇太后

あとの流のあーらうらみ  
皇太后

と巻

新六三

ひよのうらうら海の海に

海院の河百首

海中細を巻有る

う浪のあつみの海に

大細を呼下れる

わらわちのあつみの海に

経程をえん散る

町のあつみの海に

月の網代とらふと

あつみの月の光とあつみの海に

赤葉をあらわし

たつみの海に

又浪を年一巻に

白を名をえん後

あつみの海に

網代巻

後京極扱

浪の上のあつみの海に

又巻えん年一巻に

あつみの海に

百首

後二巻

あつみの海に





了字百首

早日

此并つらぬくものさへひきぬきたるもわづらひなきもの

遠路當年一門東方合 遠二行終名

言<sup>白</sup>あはれなり田のさへもわづらひなきものよすにしりぬき

あはれなり中

或る内親王

残

玉枝上

振<sup>ま</sup>ゆき<sup>ら</sup>の里のわづらひなきものよすにしりぬき

西月流玉首ウウ

後京極権臣

あはれなり田のさへもわづらひなきものよすにしりぬき

あけ

夫木和歌抄卷第十六 終

